

スイッチの入った
あの時

じぶん
switch!

学校の教員でも 文部科学省の 職員でも 『子どもたちのため』 という軸は変わらない

国家公務員

吉田 恵さん(28歳)

Profile

Yoshida Megumi

文部科学省 大臣官房人事課任用班 任用第一係

1982年生まれ。栃木県立真岡女子高校、宮城教育大学学校教育教員養成課程理科教育専攻卒業。小学校や中学校で教員として勤めた後、国家公務員採用II種試験を受けて文部科学省に入省。初等中等教育局教職員課教員免許企画室を経て現職。

撮影/小野 啓

switch!

小学校の先生にあこがれて

中学3年で進路を考えた時、小学校の先生を思い出しました。吹奏楽部の顧問が大変厳しい人だったのですが、私が部活を辞めようとしたら、私といっしょに泣きながら相談に乗ってくれたことがありました。その時、本当は誰よりも児童のことを考えている先生なんだとわかりました。彼女にあこがれて、教員になろうと決意。進路を決めてからは勉強も頑張り、当初は合格圏外だった大学に入りました。

switch!

教員から国家公務員に

大学卒業後は、教員として小学校と中学校に勤めました。子どもは、その日にできなくても次の日にはできたり、1日ですごく成長するので、毎日感動していました。特に、お別れの時に歌を歌ってくれる姿を見たら、それぞれの子どもの成長が思い出されて涙が止まりませんでした。

でも、残念なことに世の中には虐待など子どもの悲しいニュースがあふれています。

私は、受け持った学級のためだけでなく、もっと広く子どもたちを支援したいと考えるようになり、国の機関である文部科学省で働きたいと考えるようになりました。

switch!

日本の子どものために

入省後は、まず当時開始直前だった教員免許更新製の周知活動に従事しました。次に課内の予算担当、そして採用担当と、さまざまな仕事を経験してきました。当初は、「学校現場から遠くなってしまったけれど、私の仕事は子どもたちに届いているのかな」と不安でしたが、「私が働いて先生方の環境がよくなれば、子どもたちの環境もよくなる」と前向きに考えるようになりました。組織の中では、自分が考えていなかった仕事に就くこともあります。自分なりに意義を見いだして取り組むことが大事だと考えています。

高校生のみなさんには、いろんなことに挑戦してもらいたいです。やり直しはいくらでもできます。自分の可能性をどんどん広げてください。